日本ビルマ文化協会報
（第七号）

発行所
日本ビルマ文化協会
大阪市南区長堀橋筋2-28
電 06-213-5858
発行兼編集人
保科賢一

特別頒布
ビルマ地図（250円）
ビルマ語会話集（300円）
〒55円
申込先
大阪市南区長堀橋筋2-28
日本ビルマ文化協会
振替口座大阪310039
取引銀行
三和銀行日本一支店

日本ビルマ文化協会
四十八年度第二回通常総会開催

開催日時　昭和四十八年十月廿一日（日）午後二時
会　場　名古屋市、ホテル・ナゴヤ・キャッスル
来　賓　ウ・チツ・コ・コウビルマ大使夫妻
青年の船の会、中島徳三氏、
〃　野島ゆり子氏
参加者　正会員九十二名
ビルマ留学研修生チイ・チイ・アウン嬢外十一名
総会次第　（司会者丹羽宏氏）
一、開会宣言　丹羽宏氏
一、総会成立の適法性発表
着席者　七十五名
委任状提出者四〇五名
合計　四八〇名
現在会員数　七四〇名
一、小菅副会長　開会の辞
一、議長団指命　議長、山田元八氏、議長団、石塚寿男氏、長坂三夫氏
一、議事録署名人、矢野静一氏、土井次夫氏
一、議長団代表挨拶　山田元八氏
一、議事審議次第
(イ) 昭和四十八年度事業経過報告
（小谷副会長、別掲）
(ロ) 昭和四十八年度収支決算報告
（梅原理事、別掲）
(ハ) 監査結果報告　（吉田監事）
(ニ) 昭和四十九年度事業計画審議
（塔本理事、別掲）
(ホ) 昭和四十九年度予算案審議（梅原理事、別掲）
(ヘ) 緊急動議可決の件
(1) 関東支部の栗原理事より、四十九年度事業計画案第五項に関連して、ビルマ国文部省のニイ・ニイ副大臣の日本国招聘に関する緊急動議あり、万場一致で、その実現促進に努力する事を承認した。
(2) 第三回通常総会の開催地は「東京」に決定
以上にて審議終了
一、ビルマ文盲一掃運動協力のための贈呈品の目録をビルマ大使に贈呈
当協会（酒井副会長）より、ビルマ文字の柱時計百五十個。足立ライオンズクラブ（小崎啓輔氏）より同じく五十個。
一、ビルマ大使御挨拶　（別掲）
一、青年の船の会代表、中島徳三氏挨拶　（別掲）
一、祝電披露（稲垣清理事より）
一、正木会長辞任の挨拶小谷副会長代読　（別掲）
一、閉会の辞甲谷副会長
引きつづき、別室にてパーティ

駐日ビルマ連邦国大使
ウ・チッ・コッコー挨拶

先づ最初に、今回当協会並びに北九州の足立ライオンズクラブより時計の御寄贈を受け、誠に有難く、ビルマ政府を代表して厚く御礼申し上げます。

又本日は、此の様な席上に吾々夫妻をお招きにあづかり深甚の謝意を表します。

更に本日の会合で、多数の会員諸氏の元気なお姿に接する事が出来て大変喜ばしく思うと同時に、会長が御病気とかで出席されておられない事を気懸りに思っています。

当協会も次第に大きくなり、聞く所に依れば会員数も七百名を突破したとの事、誠に御同慶の至りに存ずる次第です。

更に又、第二次世界大戦の折り、ビルマ国へ出征された旧軍人の方々が、各隊毎に、又は各地域毎に戦友会を結成されていたのが最近、結集されて大きく団結されたという事を聞いて非常に欣懐に思っています。

団結が何事をも成功させる大きな基本でありますが、その様に団結された組織に対しては、出来得る限りのお力添えを致したいと念願している次第です。

さて、ビルマ連邦国は、昨年始めてアジア開発銀行に加入、本年には東南アジア閣僚開発会議にも出席した事を茲に御報告致します。此の会議は設立以来已に七年も経ちましたが、之は日本の指導に依って成立したものである事をも申し添えてきます。

本年の東南アジア閣僚開発会議には、インドネシア、タイ、マレーシャ等より閣僚や副大臣級が出席されましたが、ビルマ連邦国では、当時第二回ビルマ社会主義計画党の党大会の開催中でしたので、私が代表して出席しました。

現在がビルマ連邦国にとって最も重要な時期である事は、皆々様が先刻御承知の事と思います。

御承知の如く、ビルマ連邦国では一九六二年以後、軍部が政権を掌握して参りましたが今や、それに代るものとして計画党が大会を開いているのであります。現在、計画党こそビルマに於ける唯一の政党であり、ビルマ式社会主義を標榜する政党である事を御認識していただきたく思います。

目下、ビルマ連邦国では、社会主義共和国の憲法第二次草案を検

討中ですが、更に引き続き第三次草案も起草され、それが討議つくされ且つ人民に承認された時、始めて新憲法となる予定であります。

そして、此の新しい社会主義憲法に基づいて私達は人民議会をつくり、それを全人民を代表する組織として承認する事になりますが、その人民議会は更に国家評議員や大統領や各政府組織をつくる事になります。

今私が縷々述べた事項は一九七四年の三月までに終了し、ここに始めて新しい国家として発足する事になります。

その時になると、名称も「ビルマ社会主義連邦共和国」となり、人民に選出された人民議会が権力を掌握し、すべての国政を担当する事になります。

ここに御出席の何人かの方々は十二月又は一月に、ビルマへ行かれるそうですが、向うへ行かれたら、きっとビルマの実際の活動状況を見る機会があると思います。

来年の三月は、もう軍政ではなく、人民が討議を尽して成立した新憲法に依り国政が運営される事になります。

御承知の如く、ビルマは米作に依存する農業国ですが、昨年は他の農業国同様、気候不順のため不作でした。その結果、国民には充分な供給しなければならないので、米の輸出は皆目ありませんでした。

米が輸出出来なければ当然経済的困難に陥りますが、幸い本年は気候もよく、豊作でしたので輸出も順調で、経済も向上しています。

現在日緬間には何の問題もなく非常に友好的で相互理解が進んでいますが、更に友好親善関係を促進するために、何卒諸氏の御協力をお願いする次第です。

ビルマは御存知の如く天然資源の豊富な国でありますが、知識や資本の不足のために、未だ開発が不充分であります。

併しながら、日本は此等の事情に対し各方面より、特に経済的に援助していてくれますし、今後とも一層援助してくれる事を承知致しております。

援助は決して一方的なものではなく、受けた援助に対しては必ずお返しする積りであります。

現在、ビルマでは地下で採掘される石油だけで充分国内消費を賄ってゆく事が出来ますが、他方、目下日本の経済、技術援助に依り海底油田の開発が行われています。

その開発が成功し、本格的に採油可能の状態になれば、当然輸出へ廻す事が出来る筈です。

斯くなれば、今まで援助して下さった所へ先づ輸出するのは当然の事であります。

以上、詳しく御説明申し上げたのは、日毎に日緬の友好が増進している証左として申し述べたのであります。

有難うございました。皆様、御元気で。

（通訳、NHK国際局アジア部、ビルマ向け放送記者、田辺寿夫氏）

「青年の船の会」

代表　中島徳三氏

挨拶

本日は、此の様な盛大なる会合に参加させていただき御礼申し上げます。

丁度、二年前の十月、私は「青年の船の会」の団員として、ビルマ親善訪問をしましたが、その時、ビルマで見聞した事柄の印象は非常に強烈で、而もビルマ人より受けた温い歓迎は一生忘れる事の出来ないものでした。

帰国後、ビルマに対し、何等かの感謝の気持を表明しなければならないと考えまして、ビルマへ、鉛筆を贈る運動を興し、今年の夏鉛筆を贈った次第です。

その期間中、在日ビルマ大使館や、日緬文化協会の方々と接触している内に、日緬両国間に非常に強い絆のあるのを知り、此の絆を吾々が継承しなければならぬ事を痛感しました。

幸い、日本には日緬文化協会があり、今後益々発展し、ビルマとの友好関係が更に強力なものになる事を期待しています。

正木清氏会長を辞任

正木清氏には、かねてより健康上の理由で会長並びに理事職辞任の意を表明されておられ、その間理事会では極力その御翻意をお願いしてきましたが、同氏の御意志は固く、不本意ながらも御意志を尊重してその御辞任を承認申し上げた次第です。

茲に同氏の協会の設立並びに発展に尽された御努力、御功績に対し、協会を代表して、深甚の感謝の意を表すると共に、今後は何卒御健康に留意され、御自愛御自重される様、祈って止みません。

昭和四十八年十月

会長職代行　小菅信一

会長及理事辞任の御挨拶

正木　清

日本ビルマ文化協会が発足して未だ一年に満たないのに会員は既に五百名に垂々としこの趨勢を以ってすれば第一目標の一千名を突破することも近き将来と思われ本会に対する会員諸氏の並々ならぬ熱意と御支援に深く感謝する次第です。

扨て私は昨年三月創立総会の直前数名の幹部諸君の訪問を受け、たっての御推挙に依り一応創立総会までの積りで会長の職を引受け致しましたが、更に昨年十一月第二回の総会、又本年一月協会の第一回の親善訪問旅行団の一員としてビルマ各地の状況も大略視察することができました。然し何分にも高齢の上最近聊か恍惚の気味もあり、加うるに年来の歩行困難が一層強くなり、今回の旅行でも飛行機、バス、エレベーター、手押車と乗物ばかりの厄介になり一行と行動を共にすることのできない時もありました。

本協会の基礎が一応安定し、将来の発展が期待できる様になりました機会に甚だ我儘乍ら、会長の重責から解放させて頂きたく辞意を表明する次第であります。

本会の発展に多大の御尽力御援助を頂きました会員のみな様方に深甚の謝意を表すると共に不敏な私を陰に陽にお助け下さった理事諸君及私との旧き縁故に依り御入会賜りました知己の方々にも厚く御礼申上げます。

以上を以って会長及理事辞任の挨拶といたします。

尚終りに臨み本協会の益々隆盛に、所期の目的に邁進せらるることを祈ってやみません。

昭和四十八年一月二十一日

ビルマ文部省高等教育局長ウ・サンタ・アウン来日

文化庁の「東南アジア指導教育者」招聘プロジェクトに依り来日中の同氏は十月八日、名古屋を来訪、名大、名工大を視察後、名工大の阿座上教授外、留学生担当の諸先生、東海地区在住の留学生、協会員等卅数名にて、ナゴヤ国際ホテルにてレセプションを開催し、交歓された。

翌九日、同氏は酒井副会長に連れられて、京都を来訪、京都ホテルのロビーにて、大外大の大野助教授（現在学術調査のため渡緬中）、酒井副会長、塔本・保科両理事と懇談した。

その席上、同氏は、目下実施中の三R運動の効果、新憲法成立後の展望等に就て、自信をもって語られ、特に三R運動の一助として、老人用に「虫めがね」の必要性を述べられた。

（吉岡・保科共述）

昭和四十八年度　収支決算書

自昭和四十七年九月一日
至昭和四十八年八月三一日

収入の部

前期繰越金　二五二、〇四八
現金二三、九五三　普預二〇九、六四〇　振預一八、四五五
会費収入　一、八五九、〇〇〇
昭和四十八年度分会費（未収入分含まず）　五八二、三四九
需品販売収入　地図、バッヂ、会話集等売上代金　四三一、〇〇〇
寄付金収入　昭和四十八年度寄付金収入　一一〇
雑収入　会話集送料　一九八、八五七
預り金　足立ライオンズクラブ分　二〇一、六〇〇
前受金　昭和四十九年度分会費の前受金　四三、〇〇三
前期未収金受入　一〇九、八〇〇
昭和四十七年度分需品未収受入　一四一、七〇〇
合計　三、六六〇、二七九

支出の部

需品購入費　バッヂ、地図等購入　三四八、四八五
事業費　ビルマ国贈呈品、図書、タオル等　六四三、六〇〇
広報費　三二〇、五八五
会報三号―五号　一九二、五〇八
会員増強費　会員増強実行委員会費用　二一七、九四六
通信連絡費　切手、電話代等　一四一、七〇〇
印刷代　会則、名簿封筒等　一四〇、二〇〇
総会支出費　第一回総会来賓の旅費等　一〇〇、〇〇〇
学術調査団協力費　学術調査団寄附　八二、八〇〇
支部還元費　関東九十名、東海一四〇名　三一、一〇一
事務用品費　コピー用紙、液その他　四三、〇〇三
消耗品費　原紙、インキ、封筒その他　二二、六三五
会議費　理事会会場費等　一五、四〇〇
人件費　アルバイト学生給与　一九、四五〇
慶弔費　ビルマ人研修生入院見舞等　五、三八〇
ビルマ人研修費　騰写用ヤスリ板・ゴム印等　一六、五九〇
備品費　協会本部の表札　一七、二〇〇
雑費　関東支部　前渡金　次期繰越金一、三〇一、六九六
合計　三、六六〇、二七九

借方の部

現金三一、五一九普預七三五、九八三振預三四、一九四、定預五〇〇、〇〇〇
定期預金　五〇〇、〇〇〇
その他の預金　七七〇、一七七
基本金引当預金　二、〇〇〇、〇〇〇
会費未収入金　一七二、八〇〇
需品販売未収入金五二、〇〇〇
商品棚卸高　一三一、一六〇
支部前渡金　一七、二〇〇
合計　三、六七四、八五六

貸方の部

会費前受金　二〇一、六〇〇
図書未払金　三〇、〇〇〇
預り金　一九八、八五七
基本金　二、〇〇〇、〇〇〇
前期繰越金　三〇二、九四八
当期剰余金　九四一、四五一
合計　三、六七四、八五六

貸借対照表
昭和四十八年八月卅一日現在

損益計算書

自昭和四十七年九月一日
至昭和四十八年八月卅一日

損失の部

期首棚卸高　一六四、三〇〇
需品購入費　三四八、四八五
事業費　六四三、六〇〇
広報費　三二〇、五八五
会員増強費　一九二、五〇八
通信連絡費　二一七、九四六
印刷費　一四一、七〇〇
総会支出金　一四〇、二〇〇
学術調査団協力費　一〇〇、〇〇〇
支部還元費　八二、八〇〇
人件費　一五、四〇〇
備品費　五、三八〇
事務用品費　三一、一〇一
消耗品費　四三、〇〇三
会議費　二二、六三五
慶弔費　一九、四五〇
雑費　一六、五九〇
剰余金　九四一、四五一
図書費　三〇、〇〇〇
合計　三、四七七、一三四

利益の部

会費収入　二、二五五、〇〇〇
需品販売収入　六三四、三四九
寄付金収入　四三一、〇〇〇
雑収入　一一〇
預金利息収入　二五、五一五
期末棚卸高　一三一、一六〇
合計　三、四七七、一三四
剰余金処分
前期繰越金　三〇二、九四八
当期利益金　九四一、四五一
合計　一、二四四、三九九
之を左記の如く処分する
基本金繰入金　一、〇〇〇、〇〇〇
次期繰越金　二四四、三九九
合計　一、二四四、三九九
（註）基本金の引当として定期預金五〇〇、〇〇〇円及び普通預金より五〇〇、〇〇〇円を充当する。

右記の通り報告致します。
昭和四十八年九月廿三日
日本ビルマ文化協会
会長　正木　清
担当副会長　酒井栄一郎
会計担当理事　梅原　保
以上監査の結果、正しい事を認めます。
昭和四十八年十月廿一日
監事　吉田弥三郎
監事　山田　親英

昭和四十九年度収支予算表

自昭和四十八年九月一日
至昭和四十九年八月卅一日

収入の部（単位千円）

前期繰越金　三〇二
繰越現金、預金
会費収入　三、六〇〇円×九〇〇人　三、四二〇
一、八〇〇円×一〇〇人
前期未収入金受入　二二四
会費、需品未収入分受入
需品販売収入　二〇〇
当期見積り販売高
寄付金収入　二〇〇
当期見積寄付金
会費前受金　二〇〇
五十年度分会費前受
利息収入　二二〇
定期、普通預金利息
雑収入　一
需品送料等受入
合計　四、七六七

支出の部

総会支出金　二五〇
会場費、来賓、留学生の交通費等
事業費　九三〇
ビルマ国贈呈品、図画交流、その他
需品購入費　六〇
バッヂ代三〇〇円×二〇〇個
会員増強費　三五〇
会員増強委員会請求分
広報費　六〇〇
広報委員請求分
支部還元費　一〇〇
関東三六〇円×一一〇人
東海三六〇円×一六〇人等　五〇
人件費
アルバイト　二五〇〇円×二〇人　三〇
慶弔費
ビルマ関係者の慶弔費　三〇〇
通信連絡費
電話、切手代　一三〇
印刷費
名簿、封筒等　三〇
事務用品費

事務用文房具、原紙等
消耗用品費　五〇
各種用紙、用品代等
旅費交通費　一〇〇
（前期は個人負担）
会議費　五〇
理事会等の会場費その他
事務所費　二〇
（前期は賃貸料辞退）
備品費　一〇
謄写板部品、ゴム印等
渉外費　五〇
他団体との交流・連絡
法人格取得申請運動費　一〇〇
預り金返却　一九九
足立ライオンズクラブ預り金返却
雑費　一〇
科目外支出
予備費　五〇〇
ビルマ舞踊団協力費その他　八四八
次期繰越金　四、七六七
合計
（附帯決議）
一、この予算は常務理事会の承認を得て、各科目間の流用を認めるものとする。
二、この予算以上の寄付金、需品販売収入は、理事会の承認を経て別途予算を作成するものとする。

昭和四十九年度事業計画要綱

㈠社団法人格取得に付ては昭和四十九年度約壱ケ年を取得の為の準備期間とし、常任委員会の決定する特別委員を以って諸準備を推進する。

㈡会員増強に付ては従来の倍増運動実行委員会の計画実施する諸施策を引き続き推進し、更に青年層会員獲得の為に委員若干名の増強を図る。増強委員の決定は常務理事会に一任する。尚未青年者、学生及び正会員の同居家族等の入会者に対する会費に就ては、減額、免除等の方法を常務理事会に於て決定する。

㈢留学、研修生に対する協力に付ては従来の決定事項を実施する他

(1)本年度以降、本協力運動の為に予算を確保し別途積立貯蓄し充分検討の上最も効果のある使途に使用する。

(2)従来会友が個人的に協力して頂いていた本運動を出来るだけ身近な他の会友に呼びかけてグループ活動に其の輪を広げて頂く。

(3)グループ活動等により留学、研修生と会友の交流の場を設ける場合、出来るだけ会友外の日本人青年、学生等を加える留意をして頂く。

(4)各支部（府県）に本運動の統制実施の為の担当委員を決定し、担当委員は交流の期日、場所、グループ構成、テーマ等に就て計画連絡等の任に当り本部との連絡に務めて頂く。

(5)担当委員決定は常任理事会に一任する。

㈣文盲一掃運動に対する協力は本年度分として

(1)柱時計に協会名を記入し約六〇万円分（送料共）を贈呈する。

(2)第二回協会訪緬旅行団の渡緬時に現品がラングーン港に揚陸されている様に出来るだけ調整船積輸送する。

㈤日本ビルマ両国政府間に於ける文化協定締結を促進して頂く様に当協会より請願書を外務省宛提出する。

当該担当委員の決定は常務理事会に一任する。

㈥日本、ビルマ両国の学童生徒の図画作品を交流する為、特別委員を常務理事会に於て決定し実施に関しては同委員会に一任する。

㈦其の他

会員倍増運動成果一覧表　日本ビルマ文化協会

府県名	期別	会員簿名1号	第2号	同2号以降	小計	府県名	期別	会員簿名1号	第2号	同2号以降	小計
京都		55	38	12	105	青森		0	2	0	2
大阪		36	35	5	76	宮城		1	4	1	6
兵庫		35	38	7	80	広島		3	3	0	6
三重		15	7	0	22	岡山		1	7	0	8
和歌山		3	10	0	13	山口		0	2	1	3
滋賀		6	3	0	9	鳥取		6	2	0	8
奈良		4	10	0	14	島根		0	1	0	1
愛知		47	45	5	97	徳島		2	0	0	2
岐阜		7	11	2	20	香川		2	2	0	4
静岡		11	12	3	26	愛媛		1	2	0	3
長野		0	0	1	1	福岡		9	12	5	26
新潟		0	3	0	3	長崎		4	2	0	6
富山		0	1	0	1	熊本		5	5	0	10
石川		0	1	0	1	鹿児島		0	2	0	2
福井		1	7	0	8	宮崎		1	2	0	3
東京		33	26	7	66	大分		0	1	0	1
埼玉		3	2	1	6	北海道		0	1	0	1
神奈川		5	6	4	15	バンコク		0	1	0	1
千葉		3	5	3	11						
群馬		1	0	1	2	小計		303	316	58	
栃木		0	3	0	3	合計					676
茨木		2	0	0	2						
福島		0	1	0	1						
山形		1	1	0	2						

（No.1号～No.686 欠番10）
No.686以後約20名余の加入者あり
（未整理）

事業報告

四十七・九・一～

四八・八・三十一

四十七・十・二十二
四十七年度通常総会開催　ビルマ政府3R運動に協力して　教育用資材一式　贈呈

四十七・十一・十九
常務理事会　京都にて開催

四十七・十一・二十三
日緬親善懇親会　関東支部主催
東京にて開催

四十七・十二・一
会員増強運動実行委員会結成
運動開始

四十七・十二・三
ビルマ講演会　特別会員原田正春先生　京都にて開催

四十七・十二・末
～四十八・一・初
関東地区のビルマ留学、研修生を協会員の家庭に招待歓待す。
関東支部主催

四十八・一・七
～四十八・一・十七
協会派遣訪緬団渡緬、メルギー市大火罹災者見舞品持参贈呈すニイニイ博士より贈呈品受領
訪緬中各地文化施設視察、経済状況の調査なし　文化交流を通じて日緬親善の実をあぐ。

四十八・二・二十五
常務理事会及理事会　大阪本部にて開催

四十八・三・二十四
常務理事会　大阪本部にて開催

四十八・四・十四
ビルマより帰国学術報告会　特別会員大野徹先生　大阪にて開催

四十八・四・十八
～四十八・五・二
ビルマ首相ご一行来日　東京・名古屋・京都・大阪にて歓迎
四十八・五・九
～四十八・五・十四
ビルマ紹介の写真展開催、於北九州市、同地足立ライオンズクラブと共同主催　ビルマの紹介と協会の宣伝活動実施　足立ライオンズクラブ上り協会を通し、3R運動協力資金をビルマ政府に対し寄贈あり
四十八・五・九
九州地区の協会員と業務打合、懇談会開催　於北九州市
四十八・五・二十六
日緬親善パーテー　関東支部主催　於東京開催
四十八・七・一
常務理事会　大阪本部にて開催
四十八・八・三十一
インパール慰霊碑建設促進運動に協力、協会員協力署名数　一五、二一〇人分

寄付者御芳名

九〇〇円　林　六郎
九〇〇円　山田　伝治
一〇、〇〇〇円　瀬口　祐吉
浦田　誠康
宮原　昭二郎
一、〇〇〇円　西本　貞治
五〇、〇〇〇円　土井　次夫
三、六〇〇〇円　種谷　力
三〇、〇〇〇円　浦出　菊雄
一、八〇〇〇円　阿古　請夫
二、七〇〇〇円　吉市　繁光
二、〇〇〇〇円　藤川友紀乃
一、〇〇〇〇円　伊藤　澄子

右御寄付賜わりました方々に、誌上を通じ厚く御礼申し上げます。（総務部）

出席会員名（敬称略、順不同）

関東地区　甲谷秀太郎、栗原栄一、土屋英一、河合敏夫、坂田泰、牧野春雄、中津瀬游、土井次夫、石塚寿男、小菅信一、山田元八、岩内健二、伊藤政広、増倉唯一、小出実雄、永坂三夫、吉田弥三郎、吉田貞、浅井時二郎、浅井きす、吉岡和雄、近藤鐘永、川村栄一、小川喜一、三輪義雄、伊藤秋雄、川瀬宗雄、渡利一利、松山貫一、大島武夫、大沢金司、矢野静一、鈴木　節、山内敞詞、各務正治、丹羽　宏、今枝平男、加藤新一、安藤　茂、関戸久勝、福井守一、田島承敬、田中信一、室田藤一、滝　治一、松井喜久、小菅としえ、渡辺武男、平松義治、大谷滋一、林　安吉、小菅　徹、鈴木竹一、丹羽算成、伊藤玉次郎、小松博一、夫馬信一、寺尾　伝、近藤弘道、山下恵子、阿部泰山、中橋由蔵、太田　滋、河合　実、秦　健三

東海地区

三重地区

京阪神地区　長谷川元信、池田正隆、田口勝正、中村源三、岡本雅堂、岡本富美子、角田三郎、中村登久雄、岡本正美、小谷隆英、保科賢一、酒井栄一郎、梅原　保、岡本健蔵、森　賢、馬場新平、上羽秀一、塔本成幸、山田昭三、森　久二、佐藤　薫

その他の地区　林諄（鳥取）、本台葉子（岡山）、小崎啓輔（北九州）

計　八十九名

留学生（研修生）コーナー

忘れられない小父さん

名古屋大学理学部留学生
ドウ・チイ・チイ・アウン

私は、昭和四十六年十月八日に日本へ着きました。東京に二日間いて、十日に大阪へ行きました。

大阪へ着いて三日目の日に、私の寮へ一人の日本の小父さんから電話があって、「僕はビルマの留学生、チイ・チイさんが其処に居ると聞きましたから、会いに行きます。」と云いました。私は吃驚して、其の小父さんは私達と、どういう関係があると一生懸命に考えながら「はい、どうぞ」と返事しました。

二時間後で、その小父さんが来て自己紹介をしました。それから、私達ビルマの留学生を連れて、梅田へ行って、買物の案内をして晩御飯を御馳走して下さいました。私、大阪に居る間、その小父さんは、寮へ休みの日に来たり、電話したり、私の淋しさを慰める様にして下さいました。

何時かの日に、私達を小父さんが、うちに遊びに来て下さいと云いましたから、行って来ました。その日を私達は、いつまでも忘れません。

一つの部屋に、ビルマの友達から貰ったビルマのおみやげを預って大事にして、「此れは私のビルマの部屋」と見せてもらいました。

其の部屋で、色々な話をしながら、私達が知り度い事を、小父さんに聞きました。

「小父さん、どうしてビルマの留学生達をこんなに親切にして下さいますか」と聞いたら小父さんが「私はね、戦争の終り頃、ビルマに居た時に、喰べ物も、呑みものも無くなって、病気になって死にそうな時に、一つのビルマの家族が見つけて、自分達が食べている御飯とガピーを呉れました。そのうちに治るまで居ました。今、生きている生命は、その家族が助けた生命です。私はその家族が助けてくれなかったら、自分の家族にも会えませんでした。その事を絶対に忘れません。私は日本人です。けれどもビルマ人ともいえます。私の名は「ウー・ヤン・エイ」です」と、はっきり説明してくれました。

いまの事は、外の人達にとっては、なんでもない話かもしれません。けれども、私達にとっては、忘れられない事です。

（筆者の書いた「ローマ字日本文」をそのまま日本語に書き直しました。保科記）

「オッパイ」パコダ建立の由来

嘗て北緬に滞留された事のある諸氏にとっては懐しいあの「オッパイ」パコダの由来に就てある日京都在住の研修生テエッ・ウイン君は次の様に語ってくれました。

昔々王様と王女が住んでいました。ある日王女は王様と喧嘩をした。

大変怒りました。丁度その時、サガインの近所にパコダを建立しようとしていた大工が王女に彼女の気に入る様に建て度いと思うがどんな様式にすればよいのかお伺いを立てました。

併しその時、彼女は腹を立てていたので、大工に出て行けと云い

ました。

翌日大工は何等のアイディヤもないまゝに再び同じ質問を王女にしました。そこで、王女はぷりぷり怒りながら、「これがパコダの下絵だ」と許り自分の胸を露出して見せました。それでやっと大工は王女の意図を察し早速、パコダの建立にとりかゝったとの事です。

之即ち「オッパイ」パコダ建立の由来です。

尚お「オッパイ」パコダに就ては、大野徹氏著「知られざるビルマ」には次の様に記載されています。御参考までに。

サガインの町を出て六哩許り行った所に、半球形をした巨大な白色のパコダがあるが目に入った。カウンフムドー・パコダである。此のパコダは正式の名前を「ヤーザマニスーラ」と云うが、その形が女性の乳房に似ている事から、日本人の間では「オッパイ」パゴダというが、ビルマ人が聞いたらそれこそ目を廻しそうな名前で呼ばれている。

カウンフムドー・パコダは、一六三六年にタールン王に依って建立された。頂上に宝輪を乗せ、まるでお椀を伏せた様な形の此のパコダは、遠方より見ると成程、乳房とそっくりに見える。一七三八年、ガリブ・ネワズの率いるマニプール軍がビルマに侵入して、アバの城壁近くまで押し寄せて来た。その時切りつけたガリブ・ネワズの剣の痕跡がパコダの東門の古い門扉に残っている、とユールやハーバイが述べているけれども、それを確認する余裕はない。

高さ百五十一フィート、基台の円周四百フィートの此の巨大なパコダを維持するためにタールン王は、チェンマイ・アナン・マインブン等のシャン人俘虜を奉納した。斯るパコダの由来は、境内の隅にある大理石のビルマ語碑文に依って知る事が出来る。（保科記）

支部便り（48／7～48／10）

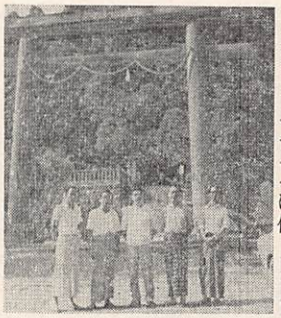
関東支部

7／19　ビルマ祭日（オンサン将軍記念日）大使閣下御夫妻（暑中休暇来日中の令息、令嬢共）以下大使館員並に家族一行バス二名にて、日光東照宮、中禅寺湖日帰り見物へ（栗原委員同行）

7／29　在京ビルマ留学生（駒場留学生会館）が、会員並に家族を会館ホールに招待して手造りのビルマ料理を御馳走し、歌や踊りを披露してパーティを催した。

8／7　長野県志賀高原山ノ内温泉郷在住会員高木豊治さんは、暑中休暇中のビルマ留学生を二泊三日に亘って招待し、野尻湖、戸隠神社、地獄谷、白根山、草津温泉、浅間高原等をドライブした。（東京より栗原委員同行）

9／25　第二回ビルマ語研修会終了式（講師、ウティンアウン、ウテエイントウ、ウカインニュン、ウマウンケイン、ウニイニイ、ウシュエバ）尚、このビルマ語授業の状況並に生徒のインタビュー等が29日夜NHKアナウンサーウニイニイに依りNHKビルマ向け短波ニュース放送に依り二〇分間に亘り紹介された。



10／6　支部運営委員会開催。審議事項次の通り。

一、支部機構の改正支部運営も軌道にのり、支部会員も増加したので、従来の運営委員会は解散、次の新役員にて発足する。

支部長　坂田　泰
副支部長　山里将一、千葉幹一、田所集吉
事務局長　栗原栄一
総務・会計　山口義春、田所雄吉、栗田敏夫、重松守、竹谷秋男、太田健治郎、小山房二
組織部　田所雄吉、中津瀬清、牧野光伸、棚辺久
事業部　山里将一、宮内速雄、山口義春、土屋英一、猪股重美、児玉清
渉外部　甲谷秀太郎、坂田泰、本多宇喜久郎、水口憲夫、譜久村正吉

二、本部事業委員の委嘱（略）

三、本部日緬親善懇親会開催（10／28）

10／12　来日中のビルマ文部省高等教育局長ウサンタアウンの送別会を留学生（共にラングーン大学時代の教え子であった）ウテインアウン、ウチェイントウ、ウカインニュン、ウエイティンと共に支部役員・山口義春、田所雄吉栗原栄一の七名にて盛大に催す。

10／21　第二回総会（名古屋）に出席（坂田、栗原、甲谷土屋、中津瀬、河合）東京よりの留学生は、ウテインアウン、ウテェイントウ、ウアウンケインの三名出席。

10／28　支部日緬親善懇親会開催（港区、芝大門精養軒）招待したビルマ人次の通り。

ウテインアウン、ウテェイントウ、ウカインニュン、ウアウンケイン、ウセインラボ、ウソウプレソウ、ウタンタイ、ウテインエイ、ウケインマウンラ、ウチョウホウ、ウチョウミン、ウマウンマウンオン、ウミョウタン、ウティントウ、ドチィチィアウンケイン、ウニイニイ、ドユザナ、ウティンマウンマウン、ウティンチイ、ウソウウイン　以上二十名

本会員二十五名出席。以上

（会報担当委員・栗原栄一）

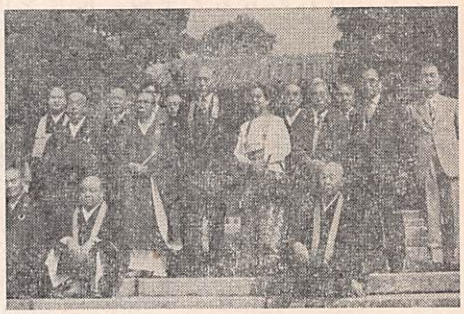
第二回通常総会のレポート

東海支部

名古屋城が秋雨の中に美しい輪奐を見せている。会場ホテルナゴヤキッスルはこのお城を濠でへだてた端麗な十二階の白亜の建物だ。前夜より泊り込んで万端準備を打合せる本部酒井・小谷・塔本・梅原の諸氏に、九時半頃より馳けつけた地元名古屋の小菅氏等を交え第二回総会の運営に就き、種々討議を重ねる。十時三十分頃、早くもチラホラ会員の姿がロビーに見えはじめた。そんな人達に早速お手伝いをたのみ、会場の設備をととのえる。十一時三十分出迎えの人々とビルマ大使ウ・チー・コーコー夫妻がホテル玄関に到着された。丸顔に愛想のいい笑みを湛えて、美しい夫人とども、会員と堅い握手を交し、一とまず、部屋に落ちつき定刻まで休息していただくことになった。はずんだ顔の会員が続々とつめかけてくる。受付の混雑もまたなつか

しくたのしい。出席者九十二名、大使夫妻、留学生、研修生、青年の船の会、NHKニュース取材班（この取材班によって午後五時三十分のローカルニュース会の情景がテレビで放映された）中日新聞等。定刻午後一時白皙の青年丹羽宏氏の司会にて開会宣言、議事進行は本部諸氏の事業報告にはじまり、次期の課題、法人格のこと、協会の戦友色イメージチェンジのことなど、やがてビルマ大使は全員の拍手に迎えられて入場される。三R運動に協力してビルマに贈られる時計（目録）の贈呈式にはNHK、中日新聞その他のカメララッシュがきらめいた。青年の船の会委員長中島徳三氏の祝詞は短いが、若い世代の心構えの一端に触れてたのもしく、心嬉しく感ぜられた。議事は滞りなく終了、席をあらためて宴会にはいる。岩内氏の司会によって矢野氏のスピーチはビルマとの永い絆を説き、山田元八氏いつもの名調子ユーモアを交え、漸くくつろぎ出した会員は談笑の渦をつくり出した。何んとなく日本ビルマ文化協会は前進だしたというムードがはっきりと感じられる。盛会であった。

翌二十二日、ホテルに宿泊された大使夫妻・本部酒井・塔本両氏・東京支部栗原氏は八時三十分愛知県庁差し廻しの車で大使夫妻・県渉外係佐久間氏同乗、地元浅井・吉岡の車に本部・東海支部・NHK通訳田辺氏・小菅東海支部長・関戸カメラマンが分乗、まず釈迦如来の分骨を納めた覚王山日泰寺へ向う。秋雨の昨日にくらべ今日は秋晴れ、名古屋の中心部を東へ約三十分、日泰寺の大本常の前にはビルマの大国旗が仏教旗と交叉されていて、この近くに居住する平松理事がそこに笑顔で待っていた。式台にならんで外国使臣を迎える僧侶数名に導れて本堂内陣にて読経礼拝、大使夫妻には金襴の袈裟が授けられた。つづいて渡廊下を縁深い庭をながめながら客殿の一番奥まった広間へ通る。この客殿には大正年代より仏舎利礼拝に訪れた支那・泰などの著名人の書画がいつも掲げられていて、今は特に設けの席の次の間の格天井の大襴間に寺宝の釈迦八相の八枚の大額が掲げられ、大使夫妻のうしろの床の間にはいつも掛けられてある印度仏塔の大幅にならんで、何とこれは地元の人もまだ見たことのない異国僧侶の肖像画の大幅が掛けられてある。寺僧の説明で、大正年代この覚王山の東に接する小高い杜にある松坂屋伊藤次郎左衛門氏の別荘揚輝荘に滞在しておられたビルマの国父オッ・タマ僧上の像であることがわかった。通訳のことばに大使夫妻も一々深くうなづかれ感慨深い面持ちであった。接待のお抹茶一服後、裏山の仏舎利塔へ、ビルマのパコダの壮麗さに比し、山門のたたづまい、苔むした小さな仏舎利塔、この日本的なものに大使夫妻の祈りは敬虔であった。礼拝所の隅に吊るされた鐘を夫妻、随行者かわるがわるに撞いて、実をつづっている菩提樹をながめながらここを辞した。次は県知事・市長への表敬訪問である。サンサンと降る秋陽の中を市庁舎正面よりは入られるビルマ正装の大使夫人の姿が人目をひく、革新本山市長は友邦の使臣を丁重にもてなし、会見約十五分、隣り合う県庁舎へ、県知事桑原幹根氏は全国知事会長として、七十才を超えながらなお壮者におとらぬ技量識見の持主である。知事は異国といえども膚も容貌も日本人にそっくりの友邦の使臣に深い親しみを感じたか、大使の家庭・家族構成にまで話が及び、大使夫妻も袴をぬいだ気持で終始にこやかに応待せられ、まがとに和やかな会見であった。やこて玄関正面まで見送りに出た知事に別れの挨拶を交し十一時三十分表敬訪問を了え、昼食の会場翠芳園へ車を馳せた。「こんなに早く食事が出来るのですか」といかにもくつろいだ大使の言葉にみんなも何かホッとした気になり夫人を交えて会話もはずみ愉快な会食となった。ベトナム首相来日のため次の予定日本陶器見学を中止して帰京される大使夫妻を午後一時過ぎ名駅に送った。

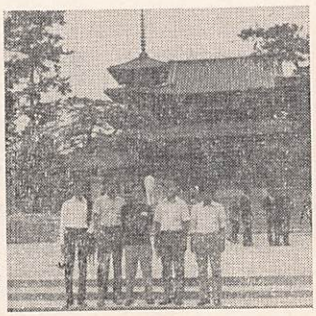


ビルマ人留学生消息

大阪外大に於ける、六ケ月間の日本語研修を終了した、ビルマ人留学生四名は、今回、各自の専門分野を研学するため転校する事になりました。

由って彼等は離阪前の一日、岡本(健)、森(賢)両会員に連れられて、秋の大和路を心ゆくまで、楽しみました。

（留学研修生担当委員森賢）



於　法隆寺

右より
（鹿児島大学）モン・モンサン君
（水産大学）セイン・ハイン君
岡本健蔵氏
（東京農大）ソー・ミン君
（千葉大）セイン・ラー・ボ君
（森賢氏撮影）

ビルマ人のナツ信仰について㈡

服部正一

ビルマ人の信仰の中に新旧二つの宗教の共存ほどはっきり観察され得るものはない。そしてその二つの宗教とは一つは祖先の伝統によって受継がれた Shamanism と他の一つはインドから移入された正統な仏教である。

ビルマ人の家の縁側に水を満たした素焼の壺が家の柱にもたし掛けた小さい台の上に置かれてあるのが見かけられる。この水の上で村の星占い師によってある種の祈り、または魔術の呪文が唱えれる。星占い師がこの全然異教的な儀式を行うために家に来ると、お寺の仏教僧を受入れると同じほど丁寧にうやうやしくもてなすのである。聖なる tha-pye-pin の樹の葉がこの水に浸され、部屋の中や寝台の上、および家中の方々に撒かれる。それはビルーや悪霊等が家へ入って来るのを避けるためである。時には水が惜しげもなく撒かれるので書物や重要な書類がびしょ濡れにされて、不愉快極まるものであるが、もしこの風習に反対すれば一般ビルマ人との平和や面目を保つことができなくなるであろう。

チン族の間では法廷などで証人が tha-pye-pin の樹の小枝の上に誓いをなし、水に住みついているナツの媒介によって自分の身の上に呪いをかける。彼らは耳たぶにこの水の枝を飾ることさえ怖れ

るのである。そしてもしうっかりこれを為すと、彼らは悪霊に取りつかれないようにいつまでもナツをなだめなければならない。

ロシアの小説に出てくる domovoi 即ち「家霊」は農夫の間ではすべての家に存在していると信じられていた。そしてビルマの Ein-saung-nat と同じようにもし取扱いが悪ければいたづらをやるし、よくもてなされれば親切にしてくれる。ちょうどビルマで nat-tsin にバラの花や果物が置かれると同じように、昔のロシアでは domovoi のために少しの菓子と油がストーブの上に置かれた。

恐ろしい伝染病が町か村に発生すると、水壺の上にビルーの姿が荒々しく描かれて、夕方近くになると、その壺がビルマ刀によって打砕かれる。太陽が没すると、人々は竹の棒をもって家の屋根に登り、半時間ほどチーク材の柱と屋根を打ち続ける。それと同時に女と子供たちはあらん限りの声でわめき立てる。それは悪霊を驚かせて気を狂わせるためである。このことが二、三夜繰り返されると、ナツが退散して了うと彼らは考える。このことはマンダレーやランゲーンのような大きな都会においても行われたことであった。勿論、ポンヂーはこれらの行事には反対であり、盲目的な偶像崇拝と見なす。ミンドン王は王位に即く以前は僧侶であり、パーリー文学に通じた学者であったが、一八七六年にナツ崇拝に反対して勅令を出し、それを廃止させようとしたが、成功しなかったことがある。そしてこのナツ信仰は今日でも依然として行われていて、事実上、仏教と共存する一つの宗教を形成している。

ビルマ人の特性の一つは陽気なことである。彼らは階級制の偏見は全くない。彼らの宗教観は現実快楽的であり、狂言的信者ぶったところはない。彼らの正統派宗教の慣習的行事は多少花見遊山的な性質を帯びている。断食日（Ubone）毎に家族つれだってパゴダへ参詣するのであって、この日、仏陀の像をしばらく拝した後、たくさんある宿坊の一つに休息し、お腹一杯朝食を食べ、長いビルマ葉巻をふかしながら互いに雑談し合う。婦人たちは輝かしい絹の晴衣を着て、頭髪には花を飾る。そして若い男女が求愛し合うのも自由である。このように楽しい半日を過ごして家に帰り、その日は断食するのである。やや静かな祭りに似た感がする。

ビルマの仏教僧は俗界に勢力を張ろうとする政略的なところや、または他宗教に変節するようなことはまずないことである。僧侶たちは僧院の中に静かに生活し、彼らの勢力は全く道徳にかなったものである。彼らは古代から伝えられた異教的なナツ信仰のこん跡を取除くことに過去において成功しなかったし、今後も成功しないであろう。ビルマ人は Pongyi（ポンヂー）（仏教僧）を深く敬っているけれども、折にふれて風、火、金属、大地、雷、雲、家、急流、山、密林、等の諸々のナツを礼拝することは従来通りに行なっていくであろう。

ナツ信仰は涅槃の境地を求めんとする人を無能力にせしめるものであることを僧侶たちは説くが、その忠告は無益である。古い昔より根づいているこれらの不思議な信仰を特徴づけている粘着性ほど著しい力をもつものはない。アノーヤター王時代における仏教の最盛時、その最も熱烈な仏教復活の時期においてでさえもナツ崇拝は決して根絶されてはいなかった。ただ睡眠状態にあっただけである。崇拝（worship）という言葉は正しくないかも知れない。その言葉の正確な意味においてはそれは worship ではない。それはインドの神秘説でもなければ、自然不可知力説でもない。それは単に精霊融和である。薄いヴェールのみが外界からそれを分離せしめ、実際において、それは純粋の精霊崇拝、即ち geniolatry である。ビルマ語では Nat-ko-kwe-hkyin であって a-yn（belief）とは云わない。

未開人間の占い信仰は絶粋な仏教の影響にも拘らずビルマに残存し、その昔ビルマ人の祖先がイラワヂの谷間へ移動してくる以前の彼らの故郷であるヒマラヤの高原地帯に今日でも見出されるのと同じものである。それは民族学研究者に知られた古い現象であり、東南アジア諸国民、特にビルマ人の間に最も明白に見出されることができる。

（終り）

水祭り

前ラングーン大学
図書館長　ゾージ

来いよ　おまえも
新年の習しだもの
新年パダウンの咲くとき
清水をもって新酒をもって
祝い遊ぼう

いそいで来いよ
ほら見えるだらう
太鼓に笛
うまく調子をとって
一座がやってくる

大きな牛だ
背にビロードを着せ
角にはパダウンの花
化粧もよし
おれはこのまま
牛の体内に潜りこんで
共に喜び合ひ度い

不義理な人も
許してやるぞ
みんな参加しよう
愛の声

新年一月
功徳を積み
清水にぬれ
はしやぎ回りたい

輪廻を気にする人達だから
あっちのパコダは多いぞ
あっちの方がいいぞと
かけずり回る
新年だもの

明るいお月さまがポッカリ
枯葉が落ち新芽出るときの
そよぐ風にも
情をよむ

郭公鳥が梢に
黄色い声を奏でる
水祭のこのときだから
マレーモンの心は踊る
詩歌とともに
仏塔を心の奥に建ててみる
清々しいよろこび溢れんばかり

（ゾージ詩集より）

大宅賞候補
軍属ビルマ物語
吉市繁光
七二〇円
ビルマ最大の決戦場メークテーラーをめぐる非情な死闘と人類愛の実録／ビルマに第二の母を持ち弟妹数人を持つ著者の数奇な運命／非情な「禁足命令」を伝達、幾多の兵士を死に追いやる心の痛手／傷ついた著者を暖く迎えるビルマの村人／国境人種を超えた人類愛を描く。好評発売中
旺史社
東京都新宿区本村町二三
TEL（〇三）二六八一
二〇五六